

古事記 五

2017年3月22日

原文： 岩波文庫 古事記

現代語訳： 岸本陸一

素人が古事記を普通に読む試み。日本人なら誰でも読めるはず、高校で漢文習ったんだから大丈夫なはず。誰にも習っていないので、かえっていいかも、という実験。

## 天照大神と須佐之男命

故於是速須佐之男命言、然者請天照大御神將罷。乃參上天時、山川悉動、國土皆震。爾天照大御神聞驚而詔、我那勢命之上來由者、必不善心。欲奪我國耳。即解御髮、纏御美豆羅而、乃於左右御美豆羅、亦於御纒、亦於左右御手、各纏持八尺勾瓊之五百津之美須麻流之珠而（自美至流四字以音、下效此。）曾毘良邇者、負千入之鞆（訓入云能理、下效此。自曾至邇以音。）比良邇者、附五百入之鞆、亦所取佩伊都（此二字以音）之竹鞆而、弓腹振立而、堅庭者、於向股踏那豆美（三字以音。）如沫雪蹶散而、伊都（二字以音）之男建（訓建云多祁夫）踏建而待問、何故上來。

スサノオは、ならばアマテラスに事情を話そう、と言った。天に参上する時、山や川が動き、国土が揺れた（地震はスサノオのせい？） アマテラスは驚いて言った。あんた（弟）が天に昇る時には、きっと何かたくらんでいるに違いない。私の国（高天原）を奪うつもり？ アマテラスは髪を解いて男装をして、左右の髪にも両手にも五百の勾玉の数珠のようなものを巻き付けて、背中には矢が千本入る籠を背負い、脇にも矢が五百本入る籠を着け、弓を準備して、固い地面で四股を踏み、淡雪を蹴散らして、威勢よく叫び、「あんた何しに来たのよ？」と言った。

訳者注： スサノオが泣くと水が枯れて干ばつになりました（前回掲載分）。スサノオが天に昇ると地震が起きました。スサノオは良きにつけ悪きにつけ派手な活躍をします。古事記全般において、末の弟のエピソードに多くの文字数を割り当てています。天武天皇が弟だったといえ、露骨な弟優遇には苦笑します。

爾速須佐之男命答白、僕者無邪心。唯大御神之命以、問賜僕之哭伊佐知流之事。故、白都良久（三字以音）、僕欲往妣國以哭。爾大御神詔、汝者不可在此國而、神夜良比夜良比賜。故、以爲請將罷往之狀參上耳。無異心。爾天照大御神詔、然者、汝心之清明、何以知。於是速須佐之男命答白、各字氣比而生子。（自宇以下三字以音、下效此。）

スサノオが答えた。反逆心はありません。父イザナキがなぜ泣くのかと聞いたので、母の国に行きたいと答えのです。そしたら、父は「おまえはこの国から追放だ」と言って亡くなりました。この辺の事情を説明しようと思って姉上の所に来たのです。謀反を起こす気はありません。姉アマテラスが言った。あんた、本当に私に従うってところを見せてちょうだい。スサノオが答えた。姉上と私でそれぞれ子を産んで勝負しましょう。（占いの一種と思われる）

訳者注： ストーリーとしては訳がわかりません。推測すると、

- 父イザナキは、高天原、夜の国、海原と支配していた。しかし、母イザナミが葬られた根の堅州国は、敵国が支配していた。

- 父イザナキは命令を下した。アマテラスは高天原を、ツクヨミは夜の国を、スサノオは海原を分割して支配せよ。
- スサノオは海原ではなく、母の住む敵国に行きたいと泣いた。父イザナキは激怒し、スサノオを追放した（どこに追放したかったのかは不明）。
- スサノオは姉アマテラスに会いに高天原に行くと、スサノオを恐れた姉が警戒態勢を取っていた。
- そこで、姉と占いで勝負することになった。

簡単に言うと、父イザナキ亡き後、姉アマテラスと末弟スサノオの間に相続争いが発生。相続争いの内容は不明。

故爾各中置天安河而、宇氣布時、天照大御神、先乞度建速須佐之男命所佩十拳劔、打折三段而、奴那登母母由良邇（此八字以音。下效此。）振滌天之眞名井而、佐賀美邇迦美而（自佐下六字以音。下效此。）於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、多紀理毘賣命（此神名以音。）亦御名、謂奧津嶋比賣命。次市寸嶋比賣命。亦御名、謂狹依毘賣命。次多岐都比賣命。（三柱。此神名以音。）

高天原にある天安河（あめのやすのかは）を挟んで勝負となった。先攻アマテラス。スサノオの腰の十拳劔（トツカツルギ）を取り上げて、三つに折って、井戸の水で洗って、サクサクと噛んで、きらきらと輝く霧を吹いた。その霧から生まれた神の名はタキリヒメ。またの名はオキツシマヒメ。次にイチキシマヒメ。またの名はサヨリヒメ。次にタキツヒメ。

速須佐之男命、乞度天照大御神所纏左御美豆良八尺勾璽之五百津之美須麻流珠而、奴那登母母由良爾、振滌天之眞名井而、佐賀美邇迦美而、於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命。亦乞度所纏右御美豆良之珠而、佐賀美邇迦美而、於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、天之菩卑能命。（自菩下三字以音。）亦乞度所纏御縵之珠而、佐賀美邇迦美而、於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、天津日子根命。又乞度所纏左御手之珠而、佐賀美邇迦美而、於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、活津日子根命。亦乞度所纏右御手之珠而、佐賀美邇迦美而、於吹棄氣吹之狹霧所成神御名、熊野久須毘命。（自久下三字以音。）并五柱。

後攻スサノオ。アマテラスの左の髪にあった八尺勾璽（ヤサカノマガタマ）の百津之美須麻流珠（イホツノミスマルノタマ）を井戸の水で洗って、サクサクと噛んで、霧を吐いた。その中から生まれた神がマサカツアカツカチハヤヒアメノオシホ。次に右の髪にあった珠を噛んで吐いた。その中から生まれた神がアメノホヒ。次にアマテラスの冠の珠を噛んで吹いた霧から生まれた神がアマツヒコネ。左手のブレスレットの珠を噛んで吹いた霧から生まれた神がイクツヒコネ。右手のブレスレットからクマノクスビ。合計五柱の男子。

訳者注： 五年ほど前に安土城址付近の朝鮮人街道で行われる「あづち信長祭り」を見に行ったときのこと、仮装行列の休憩所である活津彦根神社の宮司さんにお話を伺うことができました。活津彦根神社が祀る活津日子根命の話がされたのですが、そのときには古事記の原文を読む前でした。活津日子根命のことを知らなかったため、せっかくの説明が良く分かりませんでした。これはまずい。

活津日子根命の名前は知らずとも、活津彦根神社とその前を通る朝鮮人街道、安土城址、彦根城を見れば江戸時代の初期に行ったような気分になれます。秀吉の朝鮮出兵によって貿易の道を経た対馬藩は、どうしても李氏朝鮮を説得して貿易を再開する必要がありました。徳川家康と秀忠もこれを支援したようで、なんとか朝鮮から通信使を派遣してもらうことに成功しました。通信使を迎えるにあたって、

豊臣秀吉が李氏朝鮮と徳川幕府の共通の敵であり、その豊臣を徳川が打ち倒したことをアピールしなければなりません。1607年、対馬から関門海峡、瀬戸内海、淀川を経て淀に上陸した朝鮮通信使の一行は陸路江戸に向かいます。これ以前は京都が目的地だったので、京都以東に行くのは初めてです。近江に入ると、通信使専用道路である朝鮮人街道が準備されていました。琵琶湖の向こうには信長によって焼き討ちされ、家康によって再建中の比叡山延暦寺が見えます。さらに進むと、25年ほど前に焼失した安土城址の前に出ます。さらに進むと琵琶湖に浮かぶ壮麗な彦根城が見えます。彦根城は前年の1606年に完成しているので、まさに新築。宗義智嘆願、井伊直政企画、徳川家康後援、木俣守勝監督といった感じでしょうか。朝鮮通信使の一行は日本の政権交代を強く印象づけられたことでしょう。（後で確認したのですが、彦根城はすぐ近くの犬上川を越えないと見えませんし、琵琶湖に浮かぶようにも見えませんでした）

於是天照大御神、告速須佐之男命、是後所生五柱男子者、物實因我物所成。故、自吾子也。先所生之三柱女子者、物實因汝物所成、故、乃汝子也。如此詔別也。

アマテラスはスサノオに言った。後から生まれた五人の男の子は私の持ち物から生まれた。だから私の息子よ。先に生まれた三人の女の子はあなたの持ち物から生まれた。だからあなたの娘よ。

故、其先所生之神、多紀理毘賣命者、坐胸形之奥津宮。次市寸嶋比賣命者、坐胸形之中津宮。次田寸津比賣命者、坐胸形之邊津宮。此三柱神者、胸形君等之以伊都久三前大神者也。故、此後所生五柱子之中、天菩比命之子、建比良鳥命此出雲國造・无邪志國造・上菟上國造・下菟上國造・伊自牟國造・津嶋縣直・遠江國造等之祖也、次天津日子根命者、凡川内國造・額田部湯坐連・茨木國造・倭田中直・山代國造・馬來田國造・道尻岐閨國造・周芳國造・倭淹知造・高市縣主・蒲生稻寸・三枝部造等之祖也。

長女のタキリヒメは宗像沖の島の奥津宮に座す。次女イチキシマヒメは宗像の大島の中津宮に座す。三女タキツヒメは宗像の邊津宮に座す。宗像氏などが崇拝する三前（ミマヘ）の大神である。後から生まれた五兄弟の中のアメノホヒの子タケヒラトリは出雲國造・无邪志國造・上菟上國造・下菟上國造・伊自牟國造・津嶋縣直・遠江國造などの祖先である。次にアマツヒコネは凡川内國造・額田部湯坐連・茨木國造・倭田中直・山代國造・馬來田國造・道尻岐閨國造・周芳國造・倭淹知造・高市縣主・蒲生稻寸・三枝部造などの祖先である。

訳者注：アメノホヒとアマツヒコネの子孫から多くの地方長官が生まれたようです。ほかの三人の記載がないのが気になります。

爾速須佐之男命、白于天照大御神、我心清明、故、我所生子、得手弱女。因此言者、自我勝云而、於勝佐備（此二字以音）、離天照大御神之營田之阿（此阿字以音）、埋其溝、亦其於聞看大嘗之殿、屎麻理（此二字以音）散。故、雖然爲、天照大御神者、登賀米受而告、如屎、醉而吐散登許曾（此三字以音）、我那勢之命、爲如此。又離田之阿、埋溝者、地矣阿多良斯登許曾（自阿以下七字以音）、我那勢之命、爲如此登（此一字以音）詔雖直、猶其惡態不止而轉。天照大御神、坐忌服屋而、令織神御衣之時、穿其服屋之頂、逆剥天斑馬剥而、所墮入時、天服織女見驚而、於梭衝陰上而死。（訓陰上云富登）

スサノオがアマテラス言った。私は姉上に忠誠を誓った身、反逆心など微塵もありません。私が生んだのはみな優しい女の子。これは私の勝ち、と言わねばなりません。スサノオは勝った勝ったと酒を飲み、調子に乗ってアマテラスの営田（つくだ）の畔を壊し、その溝を埋め、神殿にゲロやら糞をまき散らした。しかしアマテラスはぐっところえて咎めずに言った。「酔ってゲロを撒き散らすのはいつものこと。畔を壊し、溝を埋めるのは田の面積を増やそうとしたのよ。」しかし、スサノオの悪態はますますひどくなり、アマテラスが神聖な機織りをしている時その建物の屋根をはがして皮をはいだ馬を投げ入れた。これを見た天の機織り女が驚き、機の横糸を通す道具が陰部に突き刺さって死んだ。

訳者注：出た。またまた眠気覚ましのエログロ・エピソードです。今まで居眠りしながら古事記を読んでいた少年が目を覚ますこと請け合い。また、これは大和連合政権への伏線でもあります。山間における小規模水田の場合には溝を埋められても大した被害はありませんが、根の堅洲国（大和盆地や濃尾平野など）の大規模な水田灌漑システムにとっては致命傷となります。それまで部族間の対立によって大規模な水田開発はできませんでした。天皇家、藤原家を中心に和平を実現し、一致団結（大和）して大規模水田開発を実現した時の記録が古事記であると考えています。この記載が古事記のテーマを明確に述べています。

故於是天照大御神見畏、開天石屋戸而、刺許母理（此三字以音）坐也。爾高天原皆暗、葦原中國悉闇。因此而常夜往。於是萬神之聲者、狹蠅那須（此二字以音）滿、萬妖悉發。

さすがのアマテラスも、弟スサノオの蛮行にあきれ、先祖に申し訳がたたないと思い、天石屋（石の洞窟）に閉じこもってしまった。とたんに高天原は暗くなり、葦原中國は闇に包まれた。神々のうめき声が満ち、各種の災いが発生した。

訳者注：古事記は多数の古い伝承が統合されている関係上、ひとつのエピソードに対し多くの解釈ができます。多くの読者は、うちの近所のあれが天石屋だべ、みたいに自分のこととして解釈することにより、古事記を身近に感じる効果があります。日本書紀のように「一書曰」で複数の説を列挙するより文章が短くできるという効果もあります。たとえば伊勢の人は、太陽神であるアマテラスは都の東方である伊勢に籠ったと思います。大阪の人は奈良盆地から大阪湾への排水経路である大和川の崖が崩れて、奈良盆地が水没したのではないかと思います。（私も当初そのように考えていました）

是以八百萬神、於天安之河原、神集集而（訓集云都度比）、高御産巢日神之子・思金神令思（訓金云加尼）而、集常世長鳴鳥、令鳴而、取天安河之河上之天堅石、取天金山之鐵而、求鍛人天津麻羅而（麻羅二字以音）、科伊斯許理度賣命（自伊下六字以音）、令作鏡。科玉祖命、令作八尺勾璫之五百津之御須麻流之珠而、召天兒屋命・布刀玉命（布刀二字以音、下效此）而、内拔天香山之眞男鹿之肩拔而、取天香山之天之波波迦（此三字以音、木名）而、令占合麻迦那波而（自麻下四字以音）、天香山之五百津眞賢木矣、根許士爾許士而（自許下五字以音）、於上枝、取著八尺勾璫之五百津之御須麻流之玉、於中枝、取繫八尺鏡（訓八尺云八阿多）、於下枝、取垂白丹寸手・青丹寸手而（訓垂云志殿）、此種種物者、布刀玉命・布刀御幣登取持而、天兒屋命、布刀詔戸言禱白而、天手力男神、隱立戸掖而、天宇受賣命、手次繫天香山之天之日影而、爲縹天之眞拆而、手草結天香山之小竹葉而（訓小竹云佐佐）、於天之石屋戸伏汗氣（此二字以音）蹈登杼呂許志（此五字以音）、爲神懸而、掛出胸乳、裳緒忍垂於番登也。爾高天原動而、八百萬神共咲。

やおよろずの神（有力氏族）が天安之河原に集合した。タカミムスヒ神の子であるオモヒカネ（智力の神格化）が各種の対策を実施した。

1. 常世の長鳴鳥を集めて鳴かした。太陽の出現を促すまじない。
2. 天安河之河上之天堅石（鉄を鍛えるために使う硬い石）を取り、天金山の鉄を取り、鍛人天津麻羅（カネチアマツマラ）を呼んでイシコリドメの命に鏡を作らせた。

3. タマノヤの命に八尺の勾玉五百個を使った数珠のようなものを作らせた。アマテラスが持っているのと同じものです。
4. アメノコヤネの命とフトダマの命を呼んで天香山の鹿の肩の骨と、天香山のハハカの木で占いをした。
5. 天香山の榊を根ごと掘り起こして、上の枝に八尺の勾玉五百個を使った数珠、真ん中の枝に鏡、下の枝には白と青の木綿と麻の布を結んだ。(アマテラスがこれをもうひとりの太陽神と勘違いするのが狙い。暗闇の中のお話なので、こんなのでいいのです。)
6. フトダマの命が榊を持ち
7. アメノコヤの命が祝福の祝詞を申し
8. アメノタヂカラオの命が岩戸の陰に隠れ
9. アメノウズメの命が天香山の植物を使ったタスキやカツラを身に着け、筐の束を手に持って、神がかりしたように踊りだした。衣服が乱れ乳房や陰部が露出したので、やおよろずの神が皆笑った

またまたエロいエピソード。スサノオが馬の皮を剥いで投げこんだエピソードだけでは、古事記を読んでいる少年が再び居眠りすると考えたようです。

於是天照大御神、以爲怪、細開天石屋戸而、内告者、因吾隱坐而、以爲天原自闇、亦葦原中國皆闇矣、何由以、天宇受賣者爲樂、亦八百萬神諸咲。爾天宇受賣白言、益汝命而貴神坐。故、歡喜咲樂。如此言之間、天兒屋命、布刀玉命、指出其鏡、示奉天照大御神之時、天照大御、神逾思奇而、稍自戸出而、臨坐之時、其所隱立之天手力男神、取其御手引出、卽布刀玉命、以尻久米（此二字以音）繩、控度其御後方言、從此以內、不得還入。故、天照大御神出坐之時、高天原及葦原中國、自得照明。

於是八百萬神共議而、於速須佐之男命、負千位置戸、亦切鬚及手足爪令拔而、神夜良比夜良比岐。

アマテラスは外の様子が怪しいと思い、天石屋の戸を細目に開いて中から言った。私がひきこもると高天原は暗く、葦原中國も闇に包まれると思ったのに、なぜアメノウズメが楽しく踊り、やおよろずの神が笑っているの？ こんなことを言っている間にアメノコヤネとフトダマがアマテラスの前に鏡を差し出した。鏡を別の太陽神と勘違いしたアマテラスは徐々に外に出てきた。その時隠れていたアメノタヂカラオがアマテラスの手を引いて外に引っ張り出す。その瞬間にフトダマがアマテラスの後ろにしめ縄を張って、これより中に還ってはいけません、と言った。こうやってアマテラスが外に出ると、高天原にも葦原中國にも明るい太陽が輝いた。

やおよろずの神が協議し、スサノオに穢れを祓うたくさんの品物を背負わせ、ひげを切り、手足の爪を抜いて、高天原から追放した。